

遊びは学び 学びは遊び “やってみたいが学びの芽”

初瀬基樹

文部科学省の「幼児期及び幼保小接続期の教育の理解増進事業」を受け、ベネッセコーポレーションが取りまとめた動画、『遊びは学び 学びは遊び “やってみたいが学びの芽”～「やってみたい」から始まる学びの芽（知識・技能や思考力等の基礎、学びに向かう力）の育成～』がYOUTUBEで公開されていますので、ぜひご覧になってみてください。（QRコードを読み取っていただくと見れるはずですよ）

遊びは学び 学びは遊び “やってみたいが学びの芽”

～「やってみたい」から始まる学びの芽（知識・技能や思考力等の基礎、学びに向かう力）の育成～



どんな内容かといいますと・・・

変化の激しい時代を生きていく子どもたちにとって、自らの人生を切り開いていくための「資質・能力」を育んでいくことがますます重要になっています。

「資質」とは、先天的な性質であり、生まれ持った性格や能力を表します。

「能力」とは、後天的に習得した性質であり、教育や経験によって形成されます。

そして、その「資質・能力」の育成は幼児期から始まっています。子どもたちの成長には、幼児期からの学びが重要ですが、園での遊びを通じて、子どもたちはさまざまな「資質・能力」を育んでいます。

具体的には・・・

知識及び技能の基礎

子どもたちは遊びを通していろんなことに気づいたり、できるようになったりします。文字や数量への感覚を育み、基本的な知識と技能を身につけています。

思考力、判断力、表現力等の基礎

考えたり工夫したりする遊びを通じて、子どもたちは思考力や判断力を養っています。友達との対話や積み木遊びなども、国語や算数の学習につながっています。

学びに向かう力、人間性等

「やってみたい！」という気持ちが大切です。子どもたちは興味を持ち、調べたり試したり工夫したりしながら粘り強く取り組んでいます。これは生きる力の基盤となる資質・能力です。

保育者たちは子どもたちの「学びの芽」を見守り、個々の遊びが深まるように計画しています。幼児期に培った力は小学校以降の学習にもつながり、子どもたちがいきいきと学びを深めていけるようサポートしています。園と小学校の連携も大切で、子どもたちの成長を支えています。

といった内容がわかりやすく動画にされています。「学び」というと、どうしても読み書きや数字などを覚えることをイメージしてしまいがちですが、いろんなことに興味をもって楽しい！と思うことに没頭する（＝遊ぶ）なかで子どもたちの資質・能力が育まれていくのですね。